

健康



よもやま話 ⑦

【変形性膝関節症とは】膝が痛む場合、最も多いのは、関節の表面を覆う関節軟骨が薄くなった、なくなつた状況です。関節はその擦れ合う表面を関節軟骨が覆っています。関節軟骨には神経が来ていないので擦れ合っても痛くありません。この軟骨が薄くなったり、なくなつてしまつと、その下の神経を含む骨へのストレスが大きくなり痛みを生じます。膝の軟骨が薄くなりなくなる病気の約9割を占めるのが変形性関節症です。

軽症～中等症の変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術

諏訪赤十字病院 整形外科

小林千益 部長



ような方がなりやすいかも知れませんが、原因が解つていないものもありません。原因が解つているものもあり、その代表が外傷性膝関節症です。スポーツや事故等で、膝の靭帯や半月（繊維軟骨からなる膝のバックリンのような構造物）などを損傷したのがもとで、その後、関節軟骨が摩り減り変形性膝関節症になつた状態です。

【高位脛骨骨切り術】変形性膝関節症では膝の内側の軟骨が擦り減ることが多く、O脚（いわゆる「がにまた」）になり、膝の内側が痛むようになります。60歳以上で、軟骨がなくなり、下の骨も擦り減り、変形が高度になり、痛みが著しくなつた重症の場合は、人工膝関節置換術をすることが一般的です。内側の関節軟骨が薄くなるか、なくなつた状態や、その下の骨の擦り減りが少ない軽症～中等症の場合は、高位脛骨骨切り術で痛みを軽減することができま

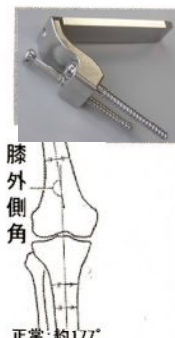
O脚をX脚にして膝痛を軽減

す。「高位」とは、脛骨（すねの骨）を膝蓋腱が付く部分（ひきまづいた時に床に接するすねの骨の出っ張った部分）より高い位置で骨切りすることを意味しています。O脚を骨切りで過矯正しX脚にして膝内側の痛みを軽減する手術です。



61歳男性 術前

楔状骨切り



膝外側角

正常：約177°



術後7ヶ月

膝外側角183° ⇒ 172°

図は、右の変形性膝関節症で高位脛骨骨切り術を行った61歳の男性です。図の左右のX線は、立った状態で撮つた膝の正面像です。左は術前で内側の軟骨の隙間がなく、大腿骨と脛骨が接触しています（矢印）。神経を含む骨同士が立ち座りや歩行時に擦れ合い、膝の内側に痛みを生じていました。左のX線の脛骨の実線の部分を楔状に切り取り、その上下の骨をくっつける高位脛骨骨切り術を行いました。図中央のシエーマに示した膝外側角が、正常では177度ですが、左の術前X線では183度とO脚になっています。術後7カ月の立つて撮つた膝のX線が図の右にありますが、膝外側角が172度となり、内側に隙間ができています（矢印）。術前はO脚のため、片効きに近い状態で内側に荷重（膝が体重を受けること）が偏り、膝の内側に痛みがありました。術後はX脚

となり、関節軟骨がほぼ正常に残っている外側で体重を受けるようになり、内側に繊維軟骨が再生し、術前あった膝の内側の痛みがなくなりました。図中央上の写真は私どもが開発した骨切り部を固定する金属材料ですが、従来品より固定力がすぐれ、骨切り部のズレを防ぎ、成功率が高くなりました。

人工膝関節は擦り減りなどの問題があり、若い方や肉体的労働や激しいスポーツをする方にはできませんが、高位脛骨骨切り術はご自分の膝を残すので若い方や比較的激しい労働やスポーツをする人にも行えます。以前お話しした寛骨臼回転骨切り術などの股関節の骨切り術は、股関節が1つの関節のため、50歳以上で軟骨が擦り減つた方には通常行いません。膝には内側と外側に別々の関節があり、内側の関節軟骨が摩り減つても、外側の軟骨がほぼ正常に残っていることが多く、50歳以上の方でも、骨の質がよく、人工膝より長いハビリに意欲のある方には高位脛骨骨切り術を行うことができます。

平成21年1月18日

長野日報掲載（許可転載）。

健康よもやま話より

日赤通信